

台風被害に

心から御見舞申し上げます

台風 23 号の被害を受けられた皆様に心から御見舞申し上げます。その被害発生原因がカイニヨにありと悪者の元凶にまつり上げられているようです。しかし、そんなに結論を急がず、少し考えて対処していく道も模索しあいたいものです。今度の台風で命を絶たれたスギの冥土からの声が入りました。

しょせん人間も自然環境の中の一員、

新たな風土づくりをぜひ！！

スギ A : 今度の台風でついに命を失った。長時間の雨で足元がゆるんだのに加え、全く同じ間の数時間、大風が体中を揺さぶり、すっかり足元がふらつき倒れてしまった、160 年耐えて生きぬいてきた私のあっけない終りとなった。それにしても、この私の耳元に聞える人間の声にただただ涙があふれる次第だ。「こんなスギを立てていたために蔵の屋根と塀を壊された」「これでもう木は植えんわ」と。なんと短絡的で身勝手な話なのか。今の人間は絶対に自然を征服したとでもお思いか。

スギ B : そう、私はここに植えられてからたくさんの友人が伐られ加わりしてこの屋敷では、最高齢になっていたが、今度はやられた。170 歳を越していたのだから、今の人間にはとても知るよしもない古い昔、私が立っていたことで、この家のおやじを助けたこともある。確かその後何年かは酒を根元にたむけられ、感謝の言葉を聞いたものだが、代は替わり、人間の力が進化したとみるや、見向きもされず、まるで不要物として扱われるようになってきたが、私も自然環境の中の一員であることには変わりはないはずなのに。

(続きは次頁へ)

<倒木と処理状況スナップ>

—写真・堀越 勝、柏樹 直樹—



①200 年余のネズコ(荒高屋神明社)



②ケヤキ倒木(福野神明社)



③社屋も全壊(年代神明社)



④東南面のスギ倒木(八木神明社)



⑤塀まで破壊(砺波市五郎丸)



⑥南東面の杉倒木(砺波市五郎丸)



⑦西面のスギ全滅(砺波市五郎丸)



⑧根倒れ (砺波市荒高屋)



⑨野焼き(福野町安居)



⑩野焼き(砺波市鹿島)



⑪レッカーで伐採木を(砺波市荒高屋)



⑫倒木の集積(砺波市坪内)

(前項からの続き)

スギA：心を痛めるのは、次の代の木を植えようとしないう人間が増えること。今度の倒木を利用しないで、私等のもつ第二の価値を放棄する動きには、まいったものだ。いや実に情けない。160年生きた木は、新たに160年は役立つ力を持つことを知ってほしいのだが、どうも人間は金銭的なことだけですべてを考えているようで。

スギB： どれだけ人間だけに通用する文化環境が進化したとはいえ、所詮それを包む自然環境の中の小さな一員だということを、頭を冷やして考えて欲しいものだ。私の先代が言っていた、まだまだ人間には予測できない未知の自然の大きさと深さがあること、それに抗する命の力が必要なことも。23号台風の出費で即、「カイニョはやめた」と言うようでは、人間の将来を危なくするぞ。

スギA： 人間の先人はたくさんの自然災害や犠牲をできるだけ少なくするために耐え、その時代の智慧をまとめ、助け合ってきた。今度も今の時代にふさわしい手のさしのべ方を考え、克服できないものか。それがきっと文化環境の前進にもつながるはずだ。

スギB： 木と付き合う新たな工夫や台風に耐えた屋敷林から学ぶことや、昔からの樹木とその組合せを考え、今まで以上に家屋のまわりに元気なカイニョを作ることこそ先人の熱い期待ではなかったのか。それが砺波の風土となり必ず宝になるうから。

—カイニョ被害・マスコミでも報道—

10月21日、22日にテレビや新聞が砺波のカイニョ被害を大きく取り上げた。又、「ミュージアムを考える会」が砺波市長や富山県に「実態調査・救済方策・伐倒木活用」等で要請したニュースは被害者の大きな話題となっている。

被害と今後についての特集記事が「北陸中日」(11/8)や「朝日」(11/12)に掲載された。

＜砺波カイニョ倶楽部で
——当面やったら……＞

- ・ 1, 会員の知恵と汗をよせあう
 - ①倒木事例の特徴の整理
 - ②被害を受けなかったカイニョ内容と事例をつかむ
 - ③「木」離れをどう少なくするか
- ・ 2, カイニョ倶楽部臨時例会で会員の意見交換を(近日中に役員会で相談)